

NSG

GROUP

NSG グループ

2021年3月期第3四半期決算報告

(2020年4月1日～ 2020年12月31日)

日本板硝子株式会社
2021年2月4日

森 重樹

代表執行役社長兼CEO

楠瀬 玲子

執行役常務 CFO

イアン・スミス

執行役 グループファイナンス担当ディレクター

目次

1. 2021年3月期第3四半期 決算概要
2. 2021年3月期業績予想
3. 事業構造改革の進捗
4. まとめ

連結損益計算書



累計ではCOVID-19影響で減収減益だが、Q3はさらに改善が進み、前年同期を上回る営業利益、当期利益を計上

(億円)	10-12月期 (3ヶ月)			4-12月期累計 (9ヶ月)			
	2020年 3月期	2021年 3月期	増減	2020年 3月期	2021年 3月期	増減	
売上高	1,372	1,359	△13	4,258	3,574	△684	
営業利益	31	48	17	180	80	△100	累計でも営業黒字
営業利益率	2.3%	3.5%		4.2%	2.2%		
個別開示項目(COVID-19関連)	-	△12		-	△140		
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	31	36	5	180	△60	△240	COVID後 営業黒字かつ 前年比プラス
個別開示項目(その他)	△22	10	32	△44	2	46	
金融費用(純額)	△32	△21	11	△95	△75	20	
持分法による投資損益	4	10	6	12	8	△4	
税引前利益 (△損失)	△19	35	54	53	△125	△178	
当期利益 (△損失)	△5	37	42	19	△135	△154	
親会社所有者に帰属する当期利益 (△損失)	△7	34	41	12	△139	△151	最終利益も 黒字回復
EBITDA	115	135	20	432	323	△109	

2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

5

5ページは連結損益計算書になります。

当第3四半期連結累計期間における売上高は、第1四半期における急激な需要の減少により、前年同期比16%減の3,574億円、営業利益は前年同期比56%減の80億円となりました。

一方、10-12月の3か月間では、売上高は1,359億円と、ほぼ前年レベルまで回復しました。営業利益は全社的なコストダウン努力と第2四半期からさらに需要が回復したことにより、48億円と、前年同期を上回りました。また、新型コロナウイルス感染症関連の個別開示項目を控除した後の営業利益についても、10-12月期では36億円の黒字となり、前年同期を上回っています。

累計の金融費用は支払利息の減少などにより、前年同期比20億円の改善です。

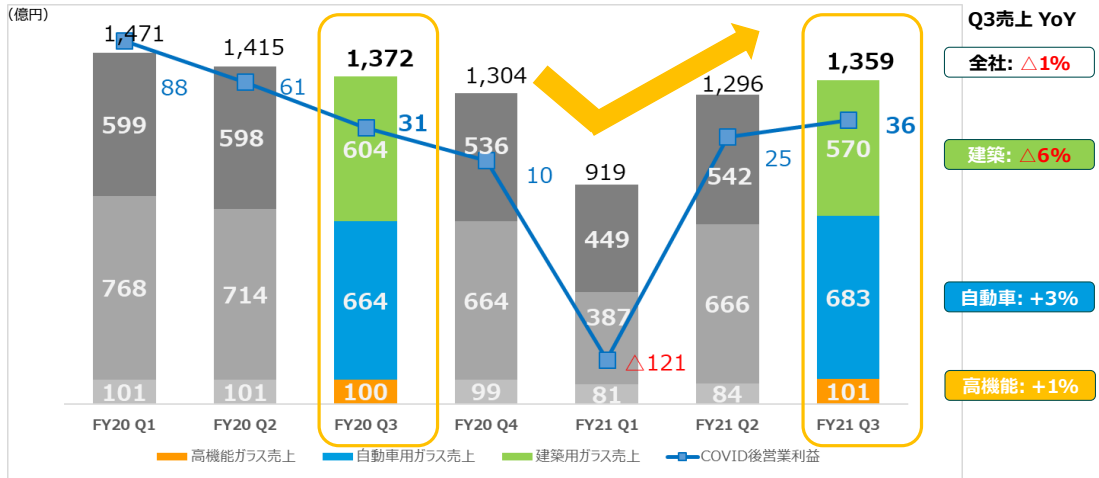
持分法による投資損益はブラジルのジョイントベンチャーなどで急速に業績が回復したことにより、累計でも8億円の利益となり、黒字化しました。

以上により、親会社所有者に帰属する当期損失は累計で139億円となりましたが、その大部分は第1四半期に計上したものであり、10-12月の3か月間では34億円の利益と、黒字化しました。

事業別売上高およびCOVID後営業利益推移

需要回復とコストダウン努力によりQ2以降回復基調

Q3は自動車用ガラスが売上回復をけん引し、COVID後営業利益で前年比プラス



2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

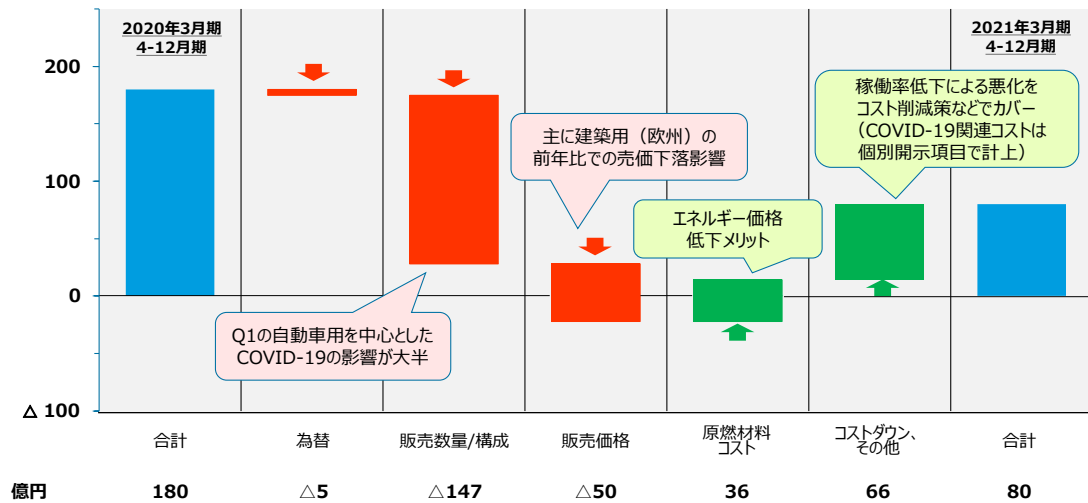
6ページは、四半期ごとの事業別売上高と、新型コロナウイルス関連個別開示項目「後」の営業利益の推移を示しています。

2020年3月期の第4四半期から新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け始め、当事業年度の第1四半期には売上高、営業利益ともに大きく落ち込みました。しかし、その後需要の戻りとともに売上高が改善し、コストダウン努力もあり、利益も大きく改善しています。

また当第3四半期を前年同期と比較すると、自動車用ガラス事業が+3%の増収となり売上の回復をけん引しました。また各地域でコスト改善が進み、全社の営業利益改善につながりました。

営業利益差異分析 (無形資産償却後 4-12月期累計)

累計ではCOVID-19によるQ1の急激な数量減の影響を受ける



2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

7ページは、4-12月の9ヶ月間の営業利益について、前年同期との差異を説明しています。

「販売数量/構成」のマイナスは、第1四半期において新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたことによるものが大半です。事業別で見ると、自動車用ガラス事業が、より大きく影響を受けています。

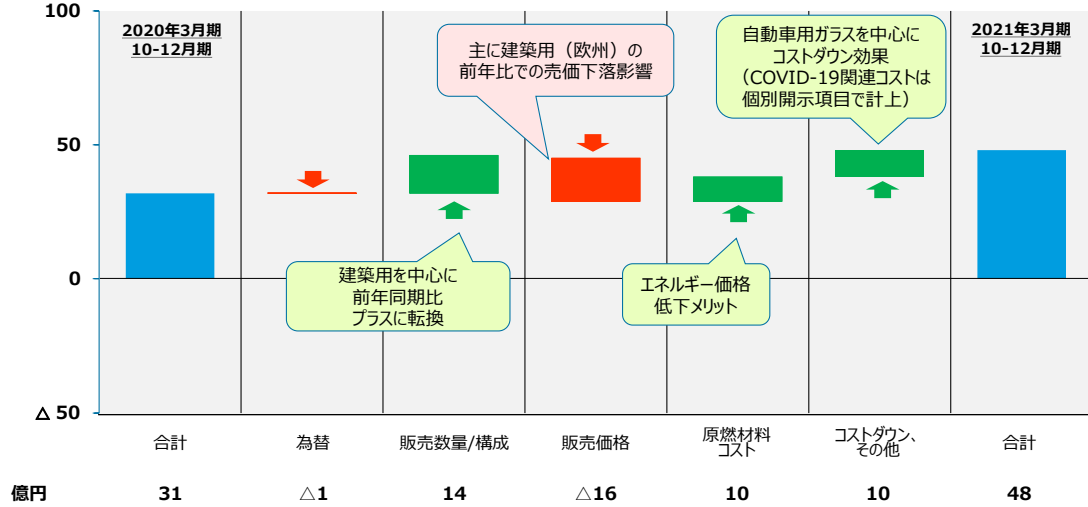
「販売価格」は、主に建築用ガラス事業の欧州の価格下落で前年比マイナスとなりました。ただし前年度後半から続いていた価格下落のペースは今年度に入って下げ止まり、改善しつつあります。

「原燃材料コスト」は、エネルギー価格の低下などにより、改善しました。

「コストダウン・その他」は、稼働率低下による悪化をコスト削減効果によってカバーしました。ただし、新型コロナウイルス感染拡大によって生じた設備休止費用などは個別開示項目へ計上しており、この営業利益には含まれていません。

営業利益差異分析 (無形資産償却後 10-12月期)

販売数量増、コストダウンにより、営業利益は前年同期比プラスに転じる



2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

8ページは、10-12月の3ヶ月間の営業利益について、前年同期との差異を説明しています。

「販売数量/構成」については、建築用ガラスを中心に改善しプラスに転じました。

「コストダウン・その他」では、自動車用ガラスを中心にコストダウンの効果が当第3四半期でも継続して現れています。

これらの効果により、前年同期比増益となりました。

個別開示項目

Q3は早期退職引当計上の一方、ブラジルで売上税に関連する係争解決で一過性の益があり、
ネットで△2億円

(億円)	2020年3月期		2021年3月期		
	4-12月期累計 (9ヶ月)	10-12月期 (3ヶ月)	4-12月期累計 (9ヶ月)	10-12月期 (3ヶ月)	
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連*	—	△12	△140	△12	Q1計上△115億円
政府支援による収益	—	2	23	2	
設備休止等に係る費用	—	△14	△163	0	
その他	△44	10	2	10	ブラジル連結子会社の納付済売上税に対する異議申立の結果
係争案件の解決に係る収益	—	34	34	34	
係争案件の解決に係る費用	△2	△1	△3	△1	
有形固定資産等の減損損失及び減損損失戻入益	△1	8	8	8	
子会社及びジョイント・ベンチャーの売却による利益	10	0	7	0	日本の早期退職者優遇措置に基づく引当22億円を含む
リストラクチャリング費用	△38	△29	△40	△29	
設備休止に係る費用	△13	0	△2	0	
退職給付に係る負債の過去勤務費用	—	△2	△2	△2	Q3純額△2億円
純額	△44	△2	△138	△2	

* 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のまん延により影響を受ける直接費と回収不能な事業運営コスト、及びそれに関連して政府により支給される補助金を個別開示項目として計上。これらにはCOVID-19により生産活動に従事できない従業員への給与支払や休止設備の維持費用、施設の安全な作業環境整備のために生じた清掃費用などの直接費用を含む。

2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

9

9ページは個別開示項目の内訳になります。

新型コロナウイルス感染症関連費用の純額は累計で140億円ですが、このほとんどが第1四半期に計上されたものです。当第3四半期における計上額は12億円と、金額は大幅に減少しています。

また当第3四半期においては、ブラジル連結子会社の納付済売上税に対する異議申し立ての結果、34億円を収益として計上しています。

一方で2020年12月29日に公表した日本の早期退職者優遇措置に基づき、第3四半期末時点で見積り可能な割増退職金等の引当費用を22億円計上しました。

この結果、10-12月の3ヶ月間の個別開示項目費用の純額は2億円にとどまりました。

連結貸借対照表

9月末対比で自己資本が改善

(億円)	2020年 3月末	2020年 9月末	2020年 12月末	3月末増減	9月末増減
資産合計	7,652	7,576	7,780	128	204
非流動資産	5,411	5,447	5,611	200	164
流動資産	2,241	2,129	2,169	△72	40
負債合計	6,770	6,934	7,014	244	80
流動負債	2,004	2,224	2,327	323	103
非流動負債	4,766	4,710	4,687	△79	△23
資本合計	882	642	766	△116	124
親会社の所有者に帰属する 持分	736	488	613	△123	125
自己資本比率 (%)	9.6%	6.4%	7.9%	△1.7pt	1.5pt
ネット借入	3,902	4,280	4,267	365	△13
ネット借入/EBITDA	7.1x	10.2x	9.6x		
ネット借入/純資産比率	4.4x	6.7x	5.6x		

Q3当期利益と為替影響等により9月末より改善

10ページは連結貸借対照表になります。

2020年12月末のグループの総資産は、3月末時点から128億円増加の7,780億円となりました。

12月末の資本合計は766億円と、3月末から116億円減少しました。

この減少の要因は主に、当第3四半期累計の当期損失などによるものです。

ただし、第2四半期末と比べると、10-12月の3か月間の利益と為替影響等により、資本合計金額、自己資本比率ともに改善しています。

連結キャッシュ・フロー計算書



損益の改善、キャッシュ節減活動が奏功し、Q3のフリー・キャッシュ・フローも大幅にプラス

(億円)	10-12月期 (3ヶ月)			4-12月期累計 (9ヶ月)		
	2020年 3月期	2021年 3月期	増減	2020年 3月期	2021年 3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△60	125	185	△46	47	93
(うち、運転資本の増減)	△96	20	116	△231	△46	185
投資活動によるキャッシュ・フロー	△145	△69	76	△447	△333	114
(うち、有形固定資産の取得)	△139	△78	61	△450	△305	145
フリー・キャッシュ・フロー	△205	56	261	△493	△286	207
財務活動によるキャッシュ・フロー	178	△26	△204	412	283	△129
現金及び現金同等物の増減	△27	30	57	△81	△3	78
現金及び現金同等物 期末残高				427	413	△14

運転資本改善プロジェクトにより3Q及び累計でも営業キャッシュ・フローが好転

戦略投資以外は削減継続

Q2に引き続き、Q3でもプラスに

11ページは連結キャッシュ・フロー計算書になります。

9ヶ月累計の営業キャッシュ・フローは、第2四半期以降の損益の改善、運転資本改善プロジェクトの効果もあり、47億円のプラスになりました。

投資活動によるキャッシュ・フローも、投資削減の効果により、マイナス333億円と前年同期比で114億円の改善となりました。

以上により9ヶ月累計のフリー・キャッシュ・フローは、マイナス286億円となりましたが、前年同期より改善しました。

一方、10-12月の3ヶ月間のフリー・キャッシュ・フローは第2四半期に引き続き、56億円のプラスとなりました。

セグメント情報



(億円)	2020年3月期 4-12月期			2021年3月期 4-12月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
建築用ガラス事業	1,801	43%	140	1,561	44%	115	△240	△25
欧州	663	16%		606	17%		△57	
アジア	717	17%		583	16%		△134	
米州	421	10%		372	11%		△49	
自動車用ガラス事業	2,146	50%	53	1,736	49%	△11	△410	△64
欧州	907	21%		721	20%		△186	
アジア	511	12%		434	12%		△77	
米州	728	17%		581	17%		△147	
高機能ガラス事業	302	7%	54	266	7%	45	△36	△9
欧州	51	1%		46	1%		△5	
アジア	240	6%		212	6%		△28	
米州	11	0%		8	0%		△3	
その他	9	0%	△67	11	0%	△69	2	△2
合計	4,258	100%	180	3,574	100%	80	△684	△100

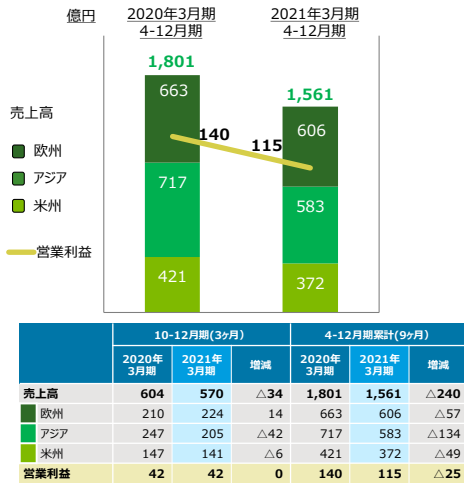
2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

12

12ページでは、事業セグメント毎の9か月累計の売上高および営業利益を示しています。各事業の詳細については次のスライドでご説明します。

建築用ガラス事業 2020年3月期第3四半期との比較

Q1の需要減の影響を受け、累計では減収減益だが、Q3はQ2に引き続き欧州、南米を中心に需要回復。コストダウン効果も業績回復に寄与



欧州 (累計: 減収・減益 Q3: 増収・増益)

- 販売数量、価格は需要の回復に合わせ、Q2以降さらに改善
- 操業安定化とコスト削減により、収益性も改善

アジア (累計: 減収・増益 Q3: 減収・増益)

- 千葉、マレーシアのフロート窯休止に伴い減収だが固定費削減効果等により利益は改善
- 太陽電池パネル用ガラスの出荷はCOVID-19影響をほぼ受けず堅調

米州 (累計: 減収・減益 Q3: 減収・減益)

- 北米は域内の商業ビル向けは低調ながら、太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調。新フロート窯（オハイオ州ラッキー）が11月9日に操業開始
- 南米は好調な需要を受け、Q2以降の売上は前年並みに回復

	10-12月期(3ヶ月)			4-12月期累計(9ヶ月)		
	2020年 3月期	2021年 3月期	増減	2020年 3月期	2021年 3月期	増減
売上高	604	570	△34	1,801	1,561	△240
欧州	210	224	14	663	606	△57
アジア	247	205	△42	717	583	△134
米州	147	141	△6	421	372	△49
営業利益	42	42	0	140	115	△25

2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

13ページへ移ります。ここから各事業の業績についてご説明いたします。

建築用ガラス事業の9ヶ月累計の業績は、第1四半期における新型コロナウイルス感染拡大に伴う需要減少の影響により、売上高1,561億円、営業利益115億円と減収減益となりました。しかし、当第3四半期は第2四半期に引き続き欧州や南米を中心として需要が回復しています。また、コストダウン効果も業績回復に寄与しています。

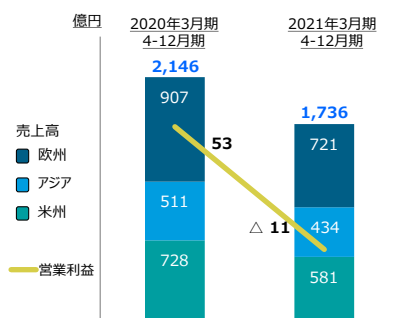
欧州は、9ヶ月累計では減収減益となりましたが、10-12月の3ヶ月間では前年同期比で増収増益となりました。販売数量・価格が需要の回復に合わせて第2四半期からさらに改善し、また操業安定化とコスト削減もプラスに働きました。

アジアは、9ヶ月累計で減収増益となっています。売上高は新型コロナウイルス感染拡大や千葉とマレーシアにあるフロート窯の休止の影響により前年同期より減少しましたが、営業利益は、休止による固定費削減効果があったこと、太陽電池パネル用ガラスの出荷が感染拡大の影響をほとんど受けず堅調であったことにより、増益となりました。

米州は、9ヶ月累計で減収減益となりました。北米は域内の商業ビル向けの需要は低調ですが、太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調に推移しています。北米オハイオ州の太陽電池パネル用ガラス向けの新しいフロート窯は11月9日に火入れし、立ち上がりは順調で現在は出荷に向けて準備を進めているところです。南米の需要は好調であり、第2四半期以降の売上は前年並みに回復しています。

自動車用ガラス事業 2020年3月期第3四半期との比較

累計では減収減益だが、6月以降は徐々に需要が回復し、Q3は前年同期比で増収増益に転換



欧州 (累計: 減収・減益 Q3: 増収・減益)

- カーメーカーの生産再開後は徐々に生産量が増加

アジア (累計: 減収・減益 Q3: 増収・増益)

- Q2以降は生産台数の回復で操業度が改善

米州 (累計: 減収・減益 Q3: 減収・増益)

- 北米はQ2以降、需要回復・コスト改善で前年比プラスの水準
- 南米も低水準だが、回復基調

	10-12月期(3ヶ月)			4-12月期累計(9ヶ月)		
	2020年 3月期	2021年 3月期	増減	2020年 3月期	2021年 3月期	増減
売上高	664	683	19	2,146	1,736	△410
欧州	278	288	10	907	721	△186
アジア	165	176	11	511	434	△77
米州	221	219	△2	728	581	△147
営業利益	1	13	12	53	△11	△64

2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

14ページは、自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業の累計の業績は、第1四半期において需要が激減した影響により前年同期を下回り、売上高1,736億円、営業損失11億円となりました。

しかし、6月以降新車用ガラスの需要が徐々に回復してきたことにより、10-12月の3ヶ月間では前年同期比で増収増益となりました。

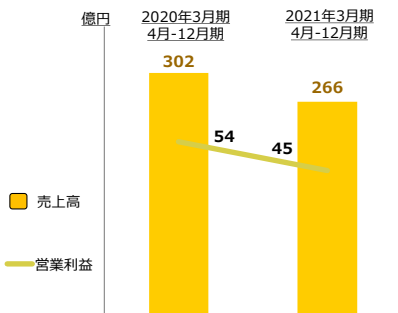
欧州では、自動車メーカーが第1四半期末から生産を再開し、徐々に生産台数を増加させています。

アジアでも、自動車生産台数の回復を受けて、操業度が改善しています。

米州についてですが、北米では、自動車の在庫水準の回復や自動車販売台数の増加に伴い、第2四半期以降、前年を上回る売上水準が続いたことに加え、コストダウンの効果もあり、業績が回復しています。南米は比較的低い水準ではあるものの、自動車生産台数は回復基調にあります。

高機能ガラス事業 2020年3月期第3四半期との比較

累計ではCOVID-19影響を受けるも、Q3は前年レベルに回復



高機能ガラス事業 (累計: 減収・減益 Q3: 増収・増益)

- ファインガラスは、COVID-19影響による影響は限定的
- プリンター用レンズは、在宅勤務需要を受けて数量増
- グラスコードは欧州自動車市場の影響を受けるも、四半期末にかけて需要が回復
- バッテリーセパレーターの業績は安定的に推移

	10-12月期(3ヶ月)			4-12月期累計(9ヶ月)		
	2020年 3月期	2021年 3月期	増減	2020年 3月期	2021年 3月期	増減
売上高	100	101	1	302	266	△36
営業利益	19	20	1	54	45	△9

15ページは、高機能ガラス事業です。

累計では売上高は前年同期比36億円減の266億円、営業利益は前年同期比9億円減の45億円となりましたが、当第3四半期においては、売上高・利益とも前年レベルにまで回復しています。

ファインガラスでは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は限定的となっています。プリンター用レンズの需要は在宅勤務需要の増加により販売数量が増加しました。グラスコードは、主に欧州向けの自動車市場の落ち込みの影響を受けていましたが、10-12月期は需要が回復しています。バッテリーセパレーターの業績は比較的安定して推移しています。

2021年3月期業績予想の前提

グループ	<ul style="list-style-type: none"> 通期売上高、営業利益を再度上方修正。需要のさらなる回復や全社コストダウン活動の進捗により、上方修正した前回予想を上回って推移したQ3実績を織り込み Q4の需要は、全体として前年並み水準への回復を想定するも、新型コロナウイルス感染の再拡大などによって製品需要が鈍化する可能性あり
建築用ガラス	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動の正常化に合わせ、安定的な需要回復を想定 太陽電池パネル用ガラスは引き続き需要堅調だが、北米新窯稼働により立上げコスト発生の見込み
自動車用ガラス	<ul style="list-style-type: none"> 各地での自動車販売動向に沿った堅調な回復を織り込むが、新型コロナウイルス感染の再拡大や半導体不足問題が自動車生産に影響する可能性あり
高機能ガラス	<ul style="list-style-type: none"> 概ね前年並みのレベルに回帰

前期比売上高想定

	前回Q3予想	Q3実績	前回Q4想定	今回Q4想定	前回通期想定	最新通期想定
建築用		△6%		全事業	△10%	全事業
自動車用	-	+3%	-	前年比	△15%	前回予想より
高機能		+1%		若干プラス	△10%	1-2pt改善
グループ	△5%	△1%	0%	3%	△15%	△12%

16ページからは、今回上方修正を行いました通期の連結業績予想についてご説明します。

上の表は今回の業績予想の前提を示しています。

当第3四半期の業績が需要の回復と全社コストダウンの結果、前回予想を上回ったことを踏まえ、グループの売上高・営業利益を再度上方修正しています。第4四半期の売上高は概ね前年並みの水準に戻るものと想定しています。

ただし、新型コロナウイルス感染の再拡大によって、当社製品の需要に悪影響を及ぼす可能性もあり、今後とも継続的に市場動向を注視していきたいと考えております。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業では経済活動の正常化に合わせた安定的な需要回復を想定しています。太陽電池パネル用ガラスは引き続き堅調な需要を想定していますが、北米における太陽電池パネル用ガラスの新しい窯が11月に稼働開始しましたので、立ち上げに伴うコストが第4四半期にも若干発生することを織り込んでいます。

自動車用ガラス事業では各地の自動車販売動向に沿った堅調な回復を織り込んでいます。しかし、新型コロナウイルス感染の再拡大によるロックダウンや、半導体不足の問題が自動車生産に影響を及ぼす可能性があります。

高機能ガラス事業では概ね年度末までに前年並みの水準に戻る想定です。

また、スライドの下の表は、四半期ごとの売上高の前年同期対比を示していますが、第4四半期においては、全事業で前年同期対比で若干プラス、グループ全体としては3%程度のプラスを想定しています。通期では前年よりはマイナスですが、全事業で前回11月の予想より1-2ポイントの改善を想定しています。

連結業績予想



Q3実績等を反映し売上高・営業利益を上方修正。当期損益予想はQ4の個別開示項目が明らかになった段階で改めて開示。資産売却等により、今後発生する構造改革関連費用の影響を軽減する方針

(億円)	2021年3月期				2020年3月期	
	Q3 4-12月期 累計実績	Q4 1-3月期 予想	通期予想 (今回)	通期予想 (前回)	Q4 1-3月期 実績	通期実績
売上高	3,574	1,330	4,900	4,800	1,304	5,562
営業利益／(△損失)	80	40	120	90	32	212
COVID関連個別開示項目後 営業利益／(△損失)	△60	40	△20	△70	10	190
個別開示項目(その他)	2	-	-	-	△174	△218
金融費用(純額)	△75	-	-	-	△23	△118
持分法による投資損益	8	-	-	-	△1	11
税引前利益／(△損失)	△125	-	-	-	△188	△135
当期利益／(△損失)	△135	-	-	-	△194	△175
親会社の所有者に帰属する 当期利益／(△損失)	△139	-	-	-	△201	△189

2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

17

スライド17ページに移ります。こちらが今回修正した業績予想数値になります。

左から順に、当第3四半期累計の実績、第4四半期の今回予想、通期の今回予想と前回予想を、右の列に参考情報として前年の第4四半期と通期の実績を示しています。

当第3四半期実績が前回予想を上回ったことを踏まえて、前回公表した予想からの改善を見込んで、売上高、営業利益を上方修正しました。最新の通期予想では、売上高4,900億円、営業利益120億円、新型コロナウイルス関連個別開示項目「後」の営業損失を20億円としています。

営業利益以下の当期損益予想については、現時点での公表を控えさせていただきます。

今後第4四半期においては、個別開示項目として資産などの売却による収益やグローバルでの事業構造改革に伴う割増退職費用等の費用の発生を想定していますが、これらは今後詳細が明らかとなった時点で速やかに公表いたします。

個々の案件の詳細内容については現時点では公表出来ませんが、資産などの売却収益で構造関連改革費用の負担を出来る限り軽減させる方針としています。

事業構造改革の進捗

聖域なき改革を実行し、2022年3月期の黒字転換を目指す

緊急コスト削減プロジェクト	<ul style="list-style-type: none">● 計画通り進捗。Q3累計で前年対比約200億円の削減を達成
手元流動性	<ul style="list-style-type: none">● 投資削減・運転資本の厳格管理継続しキャッシュ・フロー改善● 12月末現預金残465億円、未使用融資枠残844億円。9月末水準よりも改善
コスト構造改革 2022年3月期に3桁億円の コスト改善効果を創出	<ul style="list-style-type: none">● 人員削減： 計画通り、世界各地において合計2,000人規模の人員削減を推進中 日本含め各地域で早期退職者優遇措置や退職者の非補充で削減進捗● 固定費の大幅削減、生産・購買コスト削減： 原燃材料費、物流費、外注費、賃借料など全社的な見直し・削減を計画・実行中
資産・事業売却検討	<ul style="list-style-type: none">● Q4に向けて引き続き推進中 資金・利益創出により、今後発生する構造改革関連費用の影響を可能な限り 軽減する方針

スライド18ページに移ります。

第2四半期決算でご説明した事業構造改革などの進捗について説明します。

まず今期の損益対策として、全社をあげて行っている緊急コスト削減プロジェクトについては人件費、経費の削減を中心として計画通り進捗し、当第3四半期累計で前年対比約200億円の削減をすることができました。[間接費は前年比10%下がっています。]

また、設備投資や運転資本も厳しく管理し、キャッシュ・フローも改善しています。これらの努力もあって手元流動性については、現預金残高、未使用融資枠ともに9月末水準よりも改善しています。

一方、2022年3月期での黒字化を目指し、事業構造改革を進めています。

足元の最優先は、人員削減を含む抜本的なコスト構造改革ですが、計画通り進捗しています。人員は、グループ全体で2,000人規模の削減を行う計画ですが、日本を含め各地域で早期退職者優遇措置や退職者の補充を行わないといった施策を行っています。

固定費、生産・購買コストの削減についても全社的な見直し・削減を鋭意計画中であり、一部は既に実行しています。

これらの施策によって2022年3月期に3桁億円以上のコスト改善効果を生み出し、黒字化できるように施策を進めています。

また、資産などの売却についても、前のスライドでご説明した通り、第4四半期中の実施に向けて鋭意進めています。

まとめ

1. 第3四半期決算

- Q1に新型コロナウイルス（COVID-19）による需要急減の影響を受け、累計では減収減益
- Q3（10-12月）は、自動車用ガラス事業が改善をけん引し、売上高がほぼ前年並（△1%）に回復。コスト削減効果もあり営業利益は前年比増益（+17億円、+52%）、親会社所有者に帰属する当期利益も黒字転換
- 太陽電池パネル用ガラスの出荷は引き続き堅調。北米新窯が11月に稼働
- 損益の改善とキャッシュ節減活動が奏功し、Q3のフリー・キャッシュ・フローはプラス
- 自己資本は9月末対比で改善

2. 通期業績予想

- Q3の実績を踏まえ、前回上方修正した売上・営業利益予想を再修正
- Q4は全体としては前年並み水準への回復を想定。ただし新型コロナウイルス感染の再拡大によって自動車生産が鈍化する可能性
- 通期の最終損益予想は、Q4の個別開示項目が明らかになった段階で改めて開示

3. 事業構造改革の進捗

- 聖域なき改革を実行し、2022年3月期の黒字転換を目指す
- 人員削減、固定費の大幅削減、生産・購買コスト削減は、計画立案・実行中
- 資産・事業売却検討も推進。資金・利益創出により、構造改革関連費用の影響を軽減する方針

スライド19ページは本日のまとめになります。

当第3四半期は、需要の回復により売上高がほぼ前年並に戻り、コスト削減効果もあって営業利益は前年比増益となりました。

今回はこれを受けて、前回に上方修正した売上・営業利益予想をさらに上方修正しました。

また、事業構造改革については、人員削減をはじめとする抜本的コスト削減を全社を挙げて鋭意実行中です。

あわせて資産・事業売却の検討も進めており、これによる資金・利益創出により、構造改革関連費用の影響を可能な限り軽減する方針です。

これらの施策によって、2022年3月期の黒字転換を目指してまいります。

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料

- 連結損益計算書（四半期別）
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 四半期別セグメント情報
- 地域別業績
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費

連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2020年3月期				2021年3月期		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期
売上高	1,471	1,415	1,372	1,304	919	1,296	1,359
営業利益(△損失)	88	61	31	32	△6	38	48
営業利益率	6.0%	4.3%	2.3%	2.5%	—	2.9%	3.5%
個別開示項目(COVID-19関連)	—	—	—	△22	△115	△13	△12
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益(△損失)	88	61	31	10	△121	25	36
個別開示項目(その他)	△6	△16	△22	△174	—	△8	10
金融費用(純額)	△35	△28	△32	△23	△24	△30	△21
持分法による投資損益	5	3	4	△1	△4	2	10
税引前利益(△損失)	52	20	△19	△188	△149	△11	35
当期利益(△損失)	31	△7	△5	△194	△165	△7	37
親会社所有者に帰属する当期利益 (△損失)	29	△10	△7	△201	△164	△9	34
EBITDA	175	142	115	118	61	127	135

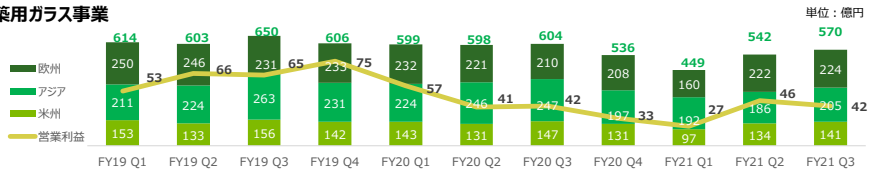
2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

22

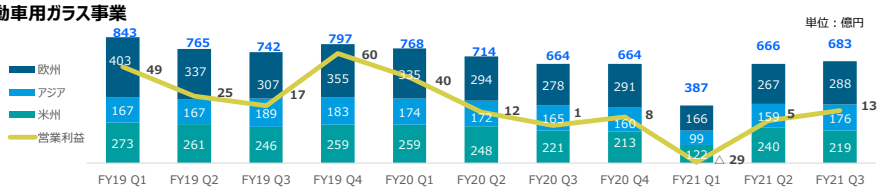
事業部門別・地域別売上高及び営業利益 四半期別推移



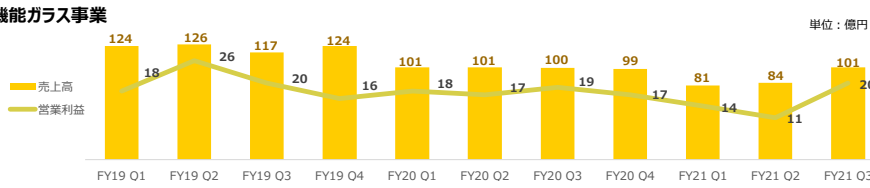
建築用ガス事業



自動車用ガス事業



高機能ガス事業



2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

セグメント情報（売上高、営業利益）



(億円)	2020年3月期				2021年3月期				増減			
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	累計
売上高: 建築用ガラス	599	598	604	1,801	449	542	570	1,561	△ 150	△ 56	△ 34	△ 240
欧州	232	221	210	663	160	222	224	606	△ 72	1	14	△ 57
アジア	224	246	247	717	192	186	205	583	△ 32	△ 60	△ 42	△ 134
米州	143	131	147	421	97	134	141	372	△ 46	3	△ 6	△ 49
営業利益	57	41	42	140	27	46	42	115	△ 30	5	0	△ 25
売上高: 自動車用ガラス	768	714	664	2,146	387	666	683	1,736	△ 381	△ 48	19	△ 410
欧州	335	294	278	907	166	267	288	721	△ 169	△ 27	10	△ 186
アジア	174	172	165	511	99	159	176	434	△ 75	△ 13	11	△ 77
米州	259	248	221	728	122	240	219	581	△ 137	△ 8	△ 2	△ 147
営業利益	40	12	1	53	△ 29	5	13	△ 11	△ 69	△ 7	12	△ 64
売上高: 高機能ガラス	101	101	100	302	81	84	101	266	△ 20	△ 17	1	△ 36
欧州	17	18	16	51	13	14	19	46	△ 4	△ 4	3	△ 5
アジア	80	79	81	240	65	68	79	212	△ 15	△ 11	△ 2	△ 28
米州	4	4	3	11	3	2	3	8	△ 1	△ 2	0	△ 3
営業利益	18	17	19	54	14	11	20	45	△ 4	△ 6	1	△ 9
売上高: その他	3	2	4	9	2	4	5	11	△ 1	2	1	2
営業利益	△ 27	△ 9	△ 31	△ 67	△ 18	△ 24	△ 27	△ 69	9	△ 15	4	△ 2
売上高: 合計	1,471	1,415	1,372	4,258	919	1,296	1,359	3,574	△ 552	△ 119	△ 13	△ 684
営業利益	88	61	31	180	△ 6	38	48	80	△ 94	△ 23	17	△ 100

2021年2月4日 | 2021年3月期第3四半期決算報告

24

地域別売上高及び営業利益

(億円)	2020年3月期 4-12月期			2021年3月期 4-12月期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
欧州	1,621	38%	66	1,373	39%	24	△248	△42
アジア	1,468	35%	111	1,229	34%	83	△239	△28
米州	1,160	27%	70	961	27%	42	△199	△28
その他 *	9	0%	△67	11	0%	△69	2	△2
合計	4,258	100%	180	3,574	100%	80	△684	△100

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

為替レート



期中平均レート

	2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
英ポンド	149	147	146	146	141	137	138	138	133	135	136
ユーロ	131	130	129	129	124	121	121	121	118	121	123
米ドル	110	111	111	111	109	109	109	109	107	106	106
ブラジル・レアル	30.4	29.3	29.3	29.4	28.0	27.6	27.2	26.4	19.9	19.8	19.7
アルゼンチン・ペソ	4.70	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用									

為替感応度

他の前提に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の影響額

	2019年3月期	2020年3月期
資本	33.0億円の減少	31.0億円の減少
当期利益/(損失)	[当期利益] 2.0億円の減少	[当期損失] 1.0億円の改善

期末レート

	2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
英ポンド	145	148	141	144	137	133	144	133	132	135	141
ユーロ	128	132	127	124	123	118	122	119	121	124	127
米ドル	111	113	111	111	108	108	109	108	107	105	103
ブラジル・レアル	28.6	28.2	28.5	28.3	28.3	26.0	27.1	20.8	19.9	18.7	19.8
アルゼンチン・ペソ	3.94	2.84	2.93	2.53	2.53	1.88	1.82	1.68	1.53	1.38	1.22

減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2020年3月期 4-12月期	2021年3月期 4-12月期	2021年3月期 見通し
減価償却費	258	263	370
資本的支出	461	256	370
通常投資	172	97	
戦略投資、他	289	159	
研究開発費	69	66	90
建築用ガラス事業	20	18	
自動車用ガラス事業	19	18	
高機能ガラス事業	7	7	
その他	23	23	

NSG

GROUP